

Title	経済学関係文献目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1959
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.52, No.5 (1959. 5) ,p.477(91)- 480(94)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	経済学関係文献目録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19590501-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ことは、紙面の都合上ゆるされないので、最後にこの書の結論と筆者の見解とをのべて、不十分な紹介を終りたいと思う。著者は結論的にのべている。

「二世代後、そのピーターラーの名前は、チャーチスト運動の指導者によって、たえず呼び出された。その闘いは、非常に多くの点で、ピーターラーの急進主義者のそれに似かよっていた。一八三八年、マンチェスターの近くの最初のチャーチスト大会において、ピーターラーの旗は、いま一度行列のなかにかかげられ、そして一八四二年には、ヘンリー・ハントにたいするマンチェスターの追憶の礎石は、チャーチストの指導者フーガス・オコンナーによってすえられたのである」(二〇六頁)。

本書を読んでもっとも印象づけられたことは、ピーターラー事件の背後に伏在する階級的分析の周到さであろう。本書は、この点において従来の労働運動史や社会経済史もしくは社会思想史の研究者

が閉却していた一事件に光をあてることによってこれらの分野に貴重な貢献をなしたことは特筆されなければならない。と同時に、本書のもつ最大の欠点は、ピーターラー事件そのものに焦点を絞りすぎた結果、その前後の勤労者大衆の運動、たとえば、ラダイン運動やチャーチスト運動との関連のなかで、この事件をどのようにに評価するか、社会運動の歴史の上でこの事件をいかに意味づけるか、これらの点についてそのとりあつかいはなほ不十分であることがあげられなければならない。このすぐれて実証的な研究によって、わが国のイギリス社会史研究が裨益するところ、きわめて大きいことを筆者は信じて疑わない。——一九五九・三・一三——(1) これについては、杉山忠平氏「ピーターラーの事件——ラダインズムからチャーチズムへ——歴史の教訓」(経済評論、三四年一月号)が、くわしくふれているので、参照されたい。

(飯田 鼎)

経済学関係文献目録

(昭和三十四年二月刊)

経済理論・思想・学説史

- *「資本論」と日本 鈴木鴻一郎著 A 5
- 二〇九頁 二六〇円 (弘文堂)
- *線型計画と経済分析 1 ドーファン、サミュエルソン、ソロ編 安井琢磨、福岡正夫、渡部経彦、小山昭雄訳 A 5 二六九頁 四八〇円 (岩波書店)
- *戦後景気循環論—統現代資本主義と恐慌—名和猷三、玉井竜象編 B 6 三二七頁 三六〇円 (合同出版社)
- *近代経済学入門 (現代教養文庫) エリック・ロール著 白石四郎、吉田忠雄訳 A 6 二九八頁 一三〇円 (社会思想研究会 出版部)
- *現代資本主義講座 4 国民生活と諸階級 有沢広巳編 A 5 二七一頁 三七〇円

経済学関係文献目録

(東洋経済新報社)

- *アメリカ経済の構造—産業連関分析の理論と実際— W・W・レオンチェフ著 山田勇、家本秀太郎訳 A 5 二四四頁 五八〇円 (東洋経済新報社)
- *講座恐慌論 4 恐慌史 井汲卓一編 A 5 二八二頁 四二〇円 (東洋経済新報社)
- *マルクス体系の再検討—マルクスとマルクス主義— アンドレ・ピエートル著 岡田純一訳 A 5 三四一頁 五八〇円 (理想社)
- *利子つき資本—信用理論研究序説— 飯田繁著 A 5 四七二頁 九八〇円 (有斐閣)
- *勢力論 高田保馬著 A 5 三七〇頁 六〇〇円 (有斐閣)

統計・数学

- *統計の理論 第一分冊 創始者たち ラン スロット・ポグベン著 馬場吉行、平田重行訳 A 5 一六五頁 三八〇円 (日本評論新社)

経済史・社会史・政治史

- *明治史研究叢書第二期 2 近代産業の生成 明治史料研究連絡会編 B 6 二三五頁 二五〇円 (御茶の水書房)
- *歴史地理講座 1 総論・ヨーロッパ 森 鹿三、織田武雄編 A 5 三七六頁 七五〇円 (朝倉書店)
- *明治維新史研究講座 5 歴史学研究会編 A 5 三一七頁 四五〇円 (平凡社)
- *畿内歴史地理研究 藤岡謙二郎著 A 5 三一八頁 八〇〇円 (日本科学社)
- *東大教養西洋史 3 近代社会の成立 中 屋健一編 A 5 一八六頁 二六〇円 (東京創元社)
- *徳川禁令考 前集第一 石井良助校訂 A 5 三二二頁 一五〇〇円 (創文社)
- *藩法集 1 岡山藩 上 藩法研究会 A 5 七八一頁 二〇〇〇円 (創文社)
- *イギリス初期重商主義研究 渡辺源次郎著 A 5 二八二頁 五三〇円 (未来社)
- *古代社会経済史—古代農業事情— マックス・ウェーバー著 渡辺金一、弓削達

訳 A5 五七五頁 一三〇〇円 (東洋経済新報社)

*資本主義への道 (社会科学選書) 河野健二、角山栄、飯沼二郎、上山春平、関順也著 B6 二五二頁 二九〇円 (ミネルツァ書房)

*アメリカ帝国主義史論 楊井克己著 A5 二七九頁 五〇〇円 (東京大学出版会)
*行商圏と領域経済—富山産米史の研究—植村元覚著 A5 三八〇頁 六五〇円 (ミネルツァ書房)

*日本金史 3 古代 2 藤本邦彦著 A5 三四六頁 四五〇円 (東京大学出版会)
*世界外交史上 田村幸策著 A5 五三九頁 七八〇円 (有斐閣)

*講座日本近代法発達史 6 鶴飼信成、福島正夫、川島武宜、辻清明編 A5 三一六頁 三〇〇円 (勁草書房)

*共同体と英雄時代の理論 太田秀通著 A5 二二六頁 三五〇円 (山川出版社)
*資本主義的生産に先行する諸形態 マルクス著 手島正毅訳 B6 一四三頁 二〇〇円 (大月書店)

社)

*監督者・職長の仕事 R・ハインツ著 宮本勇訳 B6 二七七頁 三〇〇円 (ダイヤモンド社)

*現代の経営学説 (現代経営学基礎講座5) 古川栄一、高宮晋編 A5 三〇八頁 四〇〇円 (有斐閣)

*中小企業のための経営分析 宮坂保清著 A5 二一九頁 四〇〇円 (中央経済社)
*財務諸表監査 久保田音次郎著 A5 三五八頁 五八〇円 (中央経済社)

*工業経済と経営 井上貞蔵著 A5 二二〇頁 三八〇円 (文雅堂書店)
*建設業会計 天野恭徳著 A5 三八二頁 七五〇円 (中央経済社)

農業・林業・水産業

*日本農業年報 8 農業技術の新段階 宇野弘蔵、近藤康男、山田勝次郎、山田盛太郎監修 B6 二三〇頁 三〇〇円 (中央公論社)

*農業経営と協同組合 (農業選書) 大槻正芳著 B6 一四二頁 一八〇円 (高陽書

財政・金融

*現代金融政策論 R・S・セイヤース 広瀬久重訳 A5 二二九頁 四〇〇円 (至誠堂)

商工業・経営・会計

*社会主義企業経済研究 海道進著 A5 二五二頁 五八〇円 (東洋経済新報社)

*株主 (経営管理全書) 三戸岡道夫著 A5 二八五頁 三八〇円 (日本経済新報社)

*インダストリアル・リサーチ—欧米における研究— 研究機構専門視察団報告書 日本生産性本部編 B5 二六六頁 九六〇円 (日本生産性本部)

*アメリカにおける政府と企業との関係 第三次トップ・マネジメント視察団報告書 日本生産性本部編 B5 一八六頁 五〇〇円 (日本生産性本部)
*産業技術振興 産業技術振興専門視察団報告書 日本生産性本部編 B5 一九二頁

院)

*水田農作業の理論と実際 泉清一編 A5 二六八頁 四二〇円 (農山漁村文化協会)
*日本漁業における資本主義の発達 新川伝助著 A5 五〇九頁 一〇〇〇円 (東洋経済新報社)

*畑作農業の新技術 安岡正虎、児玉敏夫、杉頼夫、長谷川新一、福井重郎、渡辺敏夫編 A5 四〇七頁 四八〇円 (農業技術協会)

*農業経営の診断と設計 木村直雄著 A5 二九五頁 三五〇円 (文教書院)
*新しい農村副業 1 農村副業研究会編 B6 二二二頁 一八〇円 (富民社)

労働・社会問題

*アメリカにおけるインダストリアル・リレーションズ 労使関係と労務管理 インダストリアル・リレーションズ専門視察団報告書 日本生産性本部編 A5 一三四頁 四〇〇円 (日本生産性本部)

*戦後労働争議実態調査 7 鉄鋼争議 労働争議調査会編 A5 三六七頁 四六〇円

六八〇円 (日本生産性本部)
*工業経営序論 田中豊喜著 A5 二六七頁 三五〇円 (白桃書房)

*原価計算詳解 松本雅男編 A5 三二五頁 五五〇円 (春秋社)
*交通経営論 麻生平八郎著 A5 三一四頁 四三〇円 (白桃書房)

*経済政策の展開と産業構造 松原藤由著 A5 三四五頁 五〇〇円 (法律文化社)
*経営は変わる—企業の体質改善の処方箋— ローラン・A・アプリー著 浦田宏昭、後藤友彦訳 B6 二二二頁 二五〇円 (日本生産性本部)

*中小企業の経営学 末松玄六著 A5 四一〇頁 六五〇円 (ダイヤモンド社)
*経営学概論 (経営学全書) 今村成男著 A5 二二七頁 三五〇円 (弘文堂)

*社内コミュニケーションの実態—社内報から家族会まで— 日本経営者団体連盟編 A5 三二九頁 三八〇円 (日本経営者団体連盟弘報部)

*発展する企業の経営管理 W・H・ニューマン、J・P・ローガン著 中山三郎訳 B6 一七七頁 二三〇円 (東洋経済新報

(中央公論社)

*就職から定年まで 仕事のバイブル E・カー著 高橋周訳 B6 一九二頁 二〇〇円 (法政大学出版局)

*よき労使関係のありかた 労働省労政局労働教育課編 B6 一五七頁 一三〇円 (労働法令協会)

*会社工場における福利厚生施設の実態—その施設と費用— 労働省労働統計調査部編 B5 一九四頁 四〇〇円 (労働法令協会)

日本経済

*日本自動車工業論 (社会科学双書) 木村敏男著 B6 二二三頁 三九〇円 (日本評論新社)

*日本資本主義論争批判 3 日本帝国主義復活の諸問題 豊田四郎著 A5 三六三頁 五八〇円 (東洋経済新報社)
*日本の自動車 トヨタ自動車 (体系日本主要産業) 熊本啓作者 A5 三〇〇頁 四三〇円 (展望社)

世界経済・貿易・海外事情

本出版社)

* 土台・上部構造論 榊利夫、小郷三郎編 B 6 二一八頁 二八〇円 (合同出版社)

キン、P・ガイル、C・H・ドーン編 山口光朔訳 B 6 小 二七六頁 三二〇円 (社会思想研究会出版部)

* 現代世界独占禁止法令集 各国の法令と解説 公正取引委員会事務局訳編 A 5 四四七頁 九〇〇円 (日本生産性本部)

* 日本近代思想の成立 (創元歴史選書) 岩井忠熊著 B 6 一六六頁 二〇〇円 (創元社)

* 講座現代日本の経済と政治 4 大衆運動と政治過程 内田稷吉、狭間源三、小野義彦、古畑義和、勝部元編 A 5 二九七頁 三八〇円 (大月書店)

* 国際収支の理論 土屋六郎著 A 5 三六二頁 五七〇円 (中央経済社)

* 二つの世界とナショナリズム 国際政治一九五八年秋季 日本国際政治学会編 A 5 一八四頁 二五〇円 (日本国際政治学会、発売有斐閣)

年鑑・辞典

* 国際貿易理論——独占と貿易—— 岡倉伯士著 A 5 三一九頁 六二〇円 (有斐閣)

* 社会政策的協同思想 平実著 A 5 三三三頁 四八〇円 (ミネルツァ書房)

* 世界大百科事典 31 ロラーワソ 付表、補遺 平凡社編 A 4 五〇八頁 二五〇〇円 (平凡社)

政治学・社会学・社会思想

* 近代社会思想史 樺俊雄編 A 5 三二六頁 四八〇円 (中央経済社)

* 社会保障年鑑 一九五九 健康保険組合連合会編 A 5 三六二頁 四四〇円 (東洋経済新報社)

* 講座近代思想史 2 近代人の誕生 2 金子武蔵・大塚久雄編 A 5 二七五頁 三〇〇円 (弘文堂)

* 封建的世界像から近代的世界像へ 1 フラソフ・ボルケナウ著 水田洋、花田圭介、矢崎光昭、栗本勲訳 A 5 三三〇頁 九〇〇円 (みすず書房)

* 日本商標大事典 商標研究会編 B 5 四六〇頁 五〇〇〇円 (中央社)

* 西欧市民意識の形成 増訂版 増田四郎著 A 5 二八六頁 四〇〇円 (春秋社)

* 歴史主義から社会学へ カルロ・アントーニ著 讀井鉄男訳 B 6 三〇四頁 三八〇円 (未来社)

* 日本歴史大辞典 14 とは——にん 河出書房新社編 B 5 三二三頁 二二〇〇円 (河出書房新社)

* 現代日本の政治意識 藤原弘達著 A 5 五一六頁 一二〇〇円 (創文社)

* トインビー批判——その史観の発展のため—— <社会思想全書> P・A・ソローに——

* 労働総覧 昭和三四年版 労働省編 B 7 九八七頁 三二〇〇円 (労働法令協会)

* 東の風と西の風 毛沢東 世界政治資料編集部訳 B 6 一七八頁 一九〇円 (新日

本出版社)

定める。

◆慶應義塾経済学会会則

第一条 本会は慶應義塾経済学会 (The Keio Economic Society) と称する。

第七条 会長は本会を代表し会務を総理する。顧問は会長の諮問に応ずる。委員は委員会を組織し会務を執行する。監事は会計を監査する。

第二条 本会は経済学の研究及びその奨励、並びに会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第八条 委員及び監事の任期は二年とする。但し再選を妨げない。

第三条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。
一 研究会の開催
二 機関誌「三田学会雑誌」及びその他研究成果の刊行
三 講演会、資料展覧会の開催
四 他の学会及び諸団体との連絡
五 その他本会の目的を達成するため適当と認める事業

第九条 会長は年一回総会を招集する。但し必要に応じ臨時総会を招集することができる。

第四条 本会は慶應義塾大学経済学部及び商学部所属専任者のうち経済学を専攻する者を以て組織する。

第十条 会員は機関誌「三田学会雑誌」及び其の他本会刊行物の配布を受けることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。
一 会長 一名
二 顧問 若干名
三 委員 若干名
四 監事 二名

第十一条 本会の経費は賛助金、補助金及び其の他の収入を以て之に充てる。

第六条 会長は慶應義塾大学経済学部長とする。顧問は会長が依頼する。委員及び監事は総会に於て会員の互選によって

第十二条 本会の会計年度は毎年四月一日より翌年三月三十一日迄とする。

慶應義塾経済学会会則

第十三条 本会会則の変更は総会の決議による。

第十四条 本会の事務所は慶應義塾経済学部研究室内に置く。

経済学会委員 (昭和三十四・四改選)
寺尾 琢磨 山本 登 島崎隆夫
黒川 俊雄 加藤 寛 渡辺国広
尾城太郎丸 古田精司 寺尾 誠
佐藤 保 松浦 保 以上一